



どうしても②高橋をかわせないGTR勢は、24周めに⑨藤田をいったんビットインさせて高橋の前を走らせる作戦に出た。藤田のブロックをようやくかわして高橋が前に出た時には、③篠原のGTRがすぐ後ろに迫っていたのだが……

クラブマン・レース(特殊ツーリングカーの部)

新鋭“GTR”と老巧トヨタ1600GTの激突

逃げるトヨタ1600GT、追撃するニュー・スカイラインGTR。量産市販車を高度に性能アップした車で戦うこのレースは、スタートからゴールまでホットなドラマを展開し、さらに結果をめぐる論議が尾をひいた

スタート午前11時 出走33台 完走17台 30周

《5月2日・公式予選》

国内競技車両規定の特殊ツーリングカーに属する車による戦いだ。参加申込台数は40台。クラス分けと参加車種は次のとおりである。
クラス1 (600～1000cc) : ファミリア・クーペ
クラス2 (1001～1300cc) : ミニ・クーパーS、カローラ・スプリンター、ブルーバード1300、コ

ンテッサ・クーペ

クラス3 (1301～1600cc) : ベレットGT、ブルーバード1600、ブルーバードSSS (旧型)、トヨタ1600GT

クラス4 (1601～3000cc) : スカイライン2000GTR

スカイライン2000GTRは、今回が初レースだ。総合性能からいって、レース前から優勝候補の呼び声が高かった。これに対し、過去1年以上も、ツ

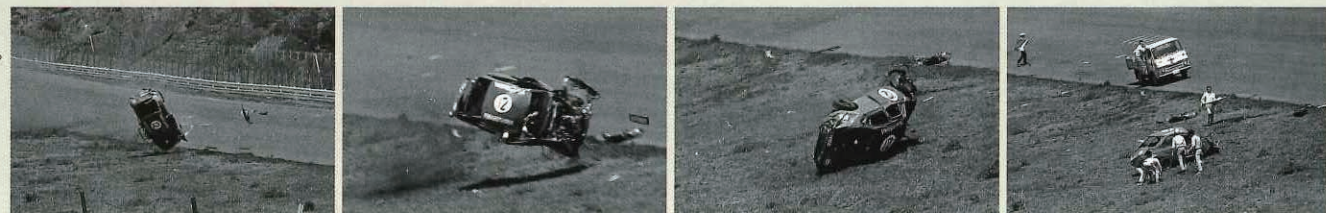
ーリングカー・レースを席卷してきたトヨタ1600GTがその王座を守りきるかどうか。——直接、市販車に結びつく車種だけに、パドックはレース前から熱気を帯びていた。

トヨタ勢は、TMSC (トヨタ・モータースポーツ・クラブ) の館宗一、高橋晴邦、中野雅晴、石井和雄。彼らのトヨタ1600GTは、ノーズに装着したオイル・クーラーの前に太いパイプのガードをつけている。

一方“GTR”をあやつるニッサン勢は、PMCS (プリンス・モータリストクラブ・スポーツ) とSCCN (ニッサン・スポーツカー・クラブ) に所属する萩原裕、ロバート・レイガン、藤田皓二、篠原孝道、長村瑞臣。——この5台の“GTR”はグッドイヤーの5.50/9.20-14という大きなタイヤを履き、みるからに悍悍なプロポジションだ。

参加申込40台のうち公式予選に姿を見せたものは37台。このうち34台が義務周回数と基準タイム(2分50秒)を満たして翌日の決勝レースへコマを進めることになった。ポールポジションは藤田皓二の“GTR”で、タイムは2分13秒42 (162km/

レース終了間際、⑫成島のカローラ・スプリンターが30度バンクを過ぎた地点で転倒事故を起こした。真っ赤なカローラはトンボ返りをうちながらバンク下のグリーンに転落。エンジンが車体から外れて飛び出すほどの大クラッシュだった。成島は全身を打ち手首の骨を折って加療3カ月の診断を受けたが、新型のシートベルトを付けていたため、生命に別状はなかった



クラスⅡ・Ⅲ勢の争い。⑪カローラ・スプリンターを駆る篠原は、クラスⅡで1位、総合6位に食い込む大健闘を見せた

h)。以下、ロバート・レイガン、長村瑞臣と“GTR”が続き、4番手に高橋晴邦のトヨタ1600GTがくい込んでいる。高橋のタイムは2分14秒91 (160km/h) だ。5番手の萩原裕と同タイムだが、排気量が小さいため予選順位は上位となった。

《5月3日・決勝レース》

午前11時きっかり、スターターのシグナルが青に変わった。と同時に②高橋晴邦、⑤館宗一、⑦中野雅晴、⑧石井和雄——のトヨタ1600GT・4台が、最前列に並んだ“GTR”の間をすり抜けるように先頭におどり出た。1速のギヤ比が高い“GTR”は、スタートの際に“半クラッチ状態”をいくぶん長く続けなくてはならない。このスキをつけてトヨタ勢は一気に先頭を奪ってしまったのだ。

1周めのグランドスタンド前でもトヨタ勢のリードは変わらなかった。各車、ものすごい排気音を残して2周めに入る。1600ccと2000ccの戦い。トヨタ1600GTの先行がどこまで続くかがレースの焦点となってきた。

2周めのヘアピンでトヨタ勢の一角が早くも崩れた。⑤館が大きくアウトにふくれてしまったのだ。館は土煙を上げながらダートの中を走りうまくコースに戻ったが、トップ・グループからはるかに遅れてしまった。

トヨタ1600GTを追撃する“GTR”勢にも序盤でいくつかのトラブルが発生した。まず3周めに④長村がグランドスタンド前の直線で前車を抜こうとしてコントロールを失い、左ヘコースアウト。8周めには⑦レイガンがエンジン・トラブルに見舞われ、S字の出口でストップ。さらに、⑨藤田皓二もエンジンの調子が上がらず中団に落ちている。したがって、トヨタ勢をまともに追撃しているのは③篠原と⑩萩原だけになってしまった。トップはいぜん②高橋のトヨタ1600GTだ。

10周めには、2番手を走っていた⑦中野の1600GTがシリンダーブロックに穴を開けて直線の入り口でストップ。車を押して管制塔付近まで戻ってきたがリタイアを余儀なくされた。かわって⑧石井のトヨタ1600GTが2位に繰り上がるが、これも16周めのヘアピンでエンジン・トラブルのためリタイア。トヨタ勢のうち生き残っているのはトップをゆく②高橋と、たびかさなるビットインのため周回遅れとなった⑤館の2台だけだ。

後半戦の興味は、逃げまくる②高橋 (トヨタ1600GT) とこれを追う⑨篠原 (スカイラインGTR) の激戦に絞られた。この間、トヨタ側は周回遅れ

の⑤館を高橋と篠原の間に送り込み、篠原をおさえる作戦に出る。一方、ニッサン側も周回遅れの“GTR”が篠原を援護、両クラブの激しい戦いが展開された。

高橋と篠原の差は10秒、9秒、8秒——と次第に詰まり、やがてテール・ツー・ノーズの状態となった。直線では、篠原が右から抜こうとすると高橋が右へ寄り、左から出ようとすると高橋が左をおさえるといったぐあい、篠原はどうしても高橋を抜くことができない。ついに、そのままの順位で高橋が逃げきり、最初のチェックカードフラッグを受けた。高橋の所要タイムは1時間8分55秒14 (平均156.705km/h)、2番手でフィニッシュラインを通過した篠原のタイムは1時間8分56秒33 (平均156.66km/h)。その差は1秒強である。レース中の最高ラップは⑩萩原 (スカイラインGTR) の2分14秒86 (160.166km/h) だった。

ところが、レース終了後、7番ポスト (直線コース) から「②高橋は⑨篠原に対して走路妨害を行なった」との判定があり、暫定結果では、高橋は1周減算のペナルティをとられて3位に転落してしまっただ。これに対し、高橋も「GTRに走路を妨害された」とのアピールを大会審査委員会に提出、さらに高橋は特別規則書第45条にもとづいて「オフィシャル側から不当に処遇された」むねのアピールも行なった。

この問題をめぐってただちに大会審査委員会が開かれたが、当日中に関係資料を集めることができず審査を6日に持ち越し、結局「高橋のアピール却下する」との裁定を下した。高橋側はこれを不服として中央審査委員会に控訴したため、正式結果は後日に持ち越された。

なお、レース終盤で⑫成島弘のカローラ・スプ

リンターが30度バンクの下りで転倒。数回転しながらバンク下のグリーンへ転がり落ちる事故があった。成島はヘリコプターで東京・信濃町の慶応病院に運ばれ、全身打撲と右手首骨折で加療3カ月の診断を受けた。しかし両足の間も支えるようになっている新型の5点式シート・ベルトを用いていたため、生命に別状はなかった。

高橋晴邦選手の話 「スタートのとき、2速から3速へのシフト・アップがスムーズにいかなかったので、しまったと思った。しかしバックミラーを見ると仲間のトヨタ1600GTがずらりと続いているので安心した。終盤で篠原選手とわたりあったが、トップ争いをしているのだし、レースなんだからあの程度のことはしかたがないと思う」

篠原孝道選手の話 「車そのものは、ひじょうにすぐれたものだった。トップでゴールラインを切れなかったのは、自分のテクニックが及ばなかったのだと反省しています」

TSレースのフィニッシュシーン。先頭②高橋のトヨタ1600GT。次いで⑨篠原のGTRの順でチェックカードフラッグを受けた。この時点では誰ひとりその後のハブニングを予想していなかった



クラブマン・レース(特殊ツーリングカーレース) 決勝結果

6kmX30周=180km 参加40台・決勝出走33台・完走17台 4-3-4左上位グリッド スタート11:00 晴れ

順	クラス	順	ドライバー	年齢	車名	シャシー	エンジン	排気量	エントラント	周	タイム	予選タイム	グリッド
1	Ⅳ	1	39 篠原 孝道	33	スカイライン2000GTR	ニッサンPGC10	ニッサンS20	1989	SCCN	30周	1:08'56"33	2:15'58	8位
2	Ⅳ	2	36 萩原 裕	20	スカイライン2000GTR	ニッサンPGC10	ニッサンS20	1989	PMCS	30周	1:09'15"54	2:14'91	5位
3	Ⅲ	1	26 高橋 晴邦	22	トヨタ1600GT	トヨタRT55	トヨタ9R	1587	TMSC	30-1周	1:08'55"14	2:14'91	4位
4	Ⅳ	3	38 藤田 皓二	22	スカイライン2000GTR	ニッサンPGC10	ニッサンS20	1989	SCCN	29周	1:08'57"63	2:13'42	1位
5	Ⅳ	4	33 狩野 英夫	25	スカイライン2000GTR	ニッサンPGC10	ニッサンS20	1989	狩野英夫	29周	1:09'36"98	2:21'37	14位
6	Ⅱ	1	11 桑原 彰	28	カローラスプリンター	トヨタKE15	トヨタK	1077	TMSC	29周	1:10'03"16	2:20'37	13位
7	Ⅲ	2	21 高梨 忠義	20	トヨタ1600GT	トヨタRT55	トヨタ9R	1587	RG ZENY	29周	1:10'20"22	2:24'16	18位
8	Ⅱ	2	12 成島 弘	31	カローラスプリンター	トヨタKE15	トヨタK	1077	TMSC	28周	アクシデント	2:23'76	16位
9	Ⅲ	3	31 米村太刀夫	27	ベレット1600GT	いすゞPR90	いすゞG160	1579	守屋清太郎	28周	1:10'45"59	2:21'62	15位
10	Ⅲ	4	23 宮口 茂樹	18	トヨタ1600GT	トヨタRT55	トヨタ9R	1587	宮口茂樹	27周	1:09'32"76	2:26'97	19位
11	Ⅱ	3	2 佐藤 文康	19	モーリス・ミニクーパーS	BMC ADO15	BMC A	1275	佐藤文康	27周	1:09'37"73	2:30'49	22位
12	Ⅱ	4	9 岡田 鉄哉	25	トヨタカローラ	トヨタKE10	トヨタK	1077	梶塚雄	27周	1:09'45"20	2:37'14	32位
13	Ⅱ	5	14 森 勝	26	ダットサンブルーバード	ニッサンP510	ニッサンL13	1296	黒瀬クラブ	27周	1:10'11"92	2:33'27	29位
14	Ⅱ	6	16 須永 謙	36	コンテッサ1300クーペ	日野LPD300	日野	1251	須永謙	27周	1:10'18"01	2:35'70	31位
15	Ⅱ	7	15 星野 薫	21	トヨタカローラ	トヨタKE10	トヨタK	1077	星野薫	27周	1:10'19"78	2:35'21	30位
16	Ⅱ	8	10 玉川 亜美	24	カローラスプリンター	トヨタKE15	トヨタK	1077	TMSC	26周	—	2:31'31	25位
17	Ⅲ	5	22 長倉 靖彦	24	ベレット1600GT	いすゞPR91	いすゞG161	1584	長倉靖彦	20周	1:09'34"42	2:30'53	23位
18	Ⅲ	25	館 宗一	22	トヨタ1600GT	トヨタRT55	トヨタ9R	1587	TMSC	20-1周	1:09'57"08	2:15'46	6位
19	Ⅲ	28	石井 和雄	22	トヨタ1600GT	トヨタRT55	トヨタ9R	1587	TMSC	15周	エンジン	2:15'47	7位
20	Ⅳ	43	大橋 繁光	22	スカイライン2000GTR	ニッサンPGC10	ニッサンS20	1989	長谷川弘	15周	エンジン	2:16'13	9位
21	Ⅲ	24	綿引 義誠	28	トヨタ1600GT	トヨタRT55	トヨタ9R	1587	TMSC	15周	エンジン	2:16'46	11位
22	Ⅲ	5	新井 隆輔	22	トヨタカローラ	トヨタKE10	トヨタK	1077	新井隆輔	15周	エンジン	2:14'33	34位
23	Ⅳ	40	長村 瑞臣	26	スカイライン2000GTR	ニッサンPGC10	ニッサンS20	1989	SCCN	15周	エンジン	2:14'66	3位
24	Ⅲ	17	清水 弘	21	ベレット1600GT	いすゞPR91	いすゞG161	1584	小山田悦郎	16-1周	2:24'16	17位	
25	Ⅲ	30	種田 繁光	26	トヨタ1600GT	トヨタRT55	トヨタ9R	1587	種田繁光	14周	エンジン	2:30'87	24位
26	Ⅳ	35	千代間由規	21	スカイライン2000GTR	ニッサンPGC10	ニッサンS20	1989	千代間由規	14周	エンジン	2:16'58	12位
27	Ⅲ	27	中野 雅晴	20	トヨタ1600GT	トヨタRT55	トヨタ9R	1587	TMSC	11周	エンジン	2:16'21	20位
28	Ⅲ	20	藤田 直広	20	トヨタ1600GT	トヨタRT55	トヨタ9R	1587	赤塚不二夫	8周	エンジン	2:31'43	26位
29	Ⅳ	37	R.L.レイガン	44	スカイライン2000GTR	ニッサンPGC10	ニッサンS20	1989	PMCS	7周	オーバーヒート	2:13'73	2位
30	Ⅱ	3	上原 清	32	トヨタカローラ	トヨタKE10	トヨタK	1077	黒瀬クラブ	6周	エンジン	2:38'43	33位
31	Ⅲ	18	清口 幹	33	ダットサンブルーバード	ニッサンP510	ニッサンL16	1595	黒瀬クラブ	6周	エンジン	2:31'50	27位
32	Ⅲ	19	川橋 隆男	18	トヨタ1600GT	トヨタRT55	トヨタ9R	1587	川橋隆男	4周	エンジン	2:28'09	20位
33	Ⅱ	6	増沢 照夫	23	トヨタカローラ	トヨタKE10	トヨタK	1077	増沢照夫	4周	エンジン	2:32'78	28位
ns	Ⅳ	29	曾我 雅昭	30	ダットサンブルーバード	ニッサンP510	ニッサンL16	1595	黒瀬クラブ	—	エンジン	2:28'38	21位

・優勝スピード: 156.660km/h

・最速ラップ: 萩原裕(スカイライン) 2'14"86 160.166km/h

・ペナルティ: No.26高橋は走路妨害により1周減算、No.25館とNo.17清水はスタート違反のため1周減算



② 佐藤 文康 モーリス・ミニクーパース



③ 上原 清 トヨタカローラ



⑤ 新井 隆頼 トヨタカローラ



⑥ 増沢 照夫 トヨタカローラ



⑨ 岡田 鉄哉 トヨタカローラ



⑩ 玉川 亜美 カローラスプリンター



⑪ 桑原 彰 カローラスプリンター



⑫ 成島 弘 カローラスプリンター



⑭ 森 勝丸 ダットサンブルーバード



⑮ 星野 薫 トヨタカローラ



⑯ 須永 惇 コンテッサ1300クーベ



⑰ 清水 弘 ベレット1600GT



⑱ 溝口 隆 ダットサンブルーバード



⑲ 川幡 幹男 トヨタ1600GT



⑳ 藤田 直広 トヨタ1600GT



㉑ 高梨 忠義 トヨタ1600GT



㉒ 長倉 靖彦 ベレット1600GT



㉓ 宮口 茂樹 トヨタ1600GT



㉔ 綿引 義誠 トヨタ1600GT



㉕ 館 宗一 トヨタ1600GT



㉖ 高橋 晴邦 トヨタ1600GT



㉗ 中野 雅晴 トヨタ1600GT



㉘ 石井 和雄 トヨタ1600GT



㉙ 種田 繁弥 トヨタ1600GT



㉚ 米村太刀夫 ベレット1600GT



㉛ 狩野 英夫 スカイライン2000GTR



㉜ 千代間由親 スカイライン2000GTR



㉝ 萩原 裕 スカイライン2000GTR



㉞ R.L.レイガン スカイライン2000GTR



㉟ 藤田 皓二 スカイライン2000GTR



㊱ 篠原 孝道 スカイライン2000GTR



㊲ 長村 瑞臣 スカイライン2000GTR



㊳ 大橋 繁光 スカイライン2000GTR